

親愛なる HANDS の皆様へ

愛と平和のご挨拶を！

はじめまして。私はフェリサ・バゴンといい、「パンガ」または「フェリー」と呼ばれています。体重は 43kg、身長は 150cm です。誕生日は 6 月 17 日で、現在 18 歳です。南コタバト州ポロモロック市マリゴ村ラムクア出身です。10 人きょうだいの 4 番目です。父はフェリペ・バゴン、母はグロリア・バゴンと言います。2 人とも先住民族ビラーンです。私が学業を続けることは、家族にとっても多くの犠牲を伴うものでした。経済的に安定していないため、両親は私たちに十分な教育を与えることが出来ず、私はもちろん苦学生です。

これまでの学業ですが、ランダン小学校を総代で卒業し、この 3 月にノートルダム・パンガ高校を卒業しました。成績は 6 番です。他にもいくつかの特別賞を受けました。これは自慢しているのではなく、しっかり勉強する強い決意と、しっかりやったことがこのような結果をもたらしたということです。神の恵みがあれば、夢に向かって忍耐強く働くことで不可能ということはありません。

現在、私はノートルダム・マーベル大学の文学部で、政治学を専攻しています。8 教科 23 単位を取っています。もうすでに中間試験は終わっていて、この 10 月 9～11 日に期末試験があります。そして、11 月 5 日からまた後期が始まります。全科目にわたって全力で試験に取り組みます。「ベストであることよりも、ベストに向けた努力こそ大切」ですから。

そちらはいかがですか？ 皆様にとって全てが順調であることを願っています。*O. N. D. のシスター、特にシスター・リタフローとシスター・スーズンを通して先住民の支援をしてくださることにとても感謝しています。皆様の優しさに幸運あれ、そしていつも神のご加護がありますように。感謝のうちに。

フェリサ・バゴン

注：O. N. D. は、現地の女子修道会の一つで、先住民族の貧困や教育問題に取り組んでいます。ラムクアの事業については、この O. N. D を通じて協力しています。



フェリサは、今年新たに HANDS 奨学生に変わったカレッジ学生です。

彼女のコミュニティー、ラムクアは、過去 8 年間、住民が団結して、ドール・フィリピン（正確にはその従業員組合）を相手に、先祖伝来の土地返還を求める抗議運動や裁判を続けた結果、2 年前に、広大なパイナップル農園の一部が返還されました。

弁護士になって仲間を助けたいというフェリサの大学進学は、3 月の現地訪問時、彼女の夢を聞いた相田さんが、支援を約束して実現したものです。

(山崎)

<パイナップル畑に囲まれたラムクア>



— 工事は順調ですが、予算オーバーのミアソン寮建設 —



大工・助手計 6 名で建設中の一棟目 (7 月末)。12 月にすべて完成予定。

26 号でご紹介した札幌の中田さんご支援によるミアソン寮の建設現場を、7 月の現地訪問時に訪ねました。食堂・台所棟をはさんで、男女各 1 棟、合計 3 棟という設計です。各棟 2 段ベッドが 10 台は置ける広さです。

歩いて 5 分ほどのミアソン公立ハイスクールも訪ねてみました。創立 3 年目で、1 棟増築中でした。

寮が完成し、校舎の増築も終われば、今度のアトゥモロック卒業予定者 5 名も、全員、親元に近いここミアソンで、ハイスクール教育を受けられそうです。

問題は予算オーバーです。8 月下旬になって CMB から届いた最終予算は、当初の概算額 50 万円を大幅に越えていました。ミアソンへの入寮希望者が増えて、トイレ兼シャワー室やベッドなど、設備増設の必要が出たことも原因のようです。会の対応については、P4 をご覧下さい。

(山崎)

* 2001—2002 年度 HANDS 小学生・ハイスクール・カレッジ 奨学生現況 (9 月末時点) *

カレッジ及び専門学校生：8 名。ハイスクール生徒：50 名。再教育の元教師 3 名（助成金でカレッジ在学中）寮でトラブルを起こした等の理由で、年度始めの 6 月以来 4 名がすでに退寮し、奨学金支給対象から外れました。小学生の奨学金支給対象は 88 名。6 月以降の退学は、2 名。婚約、勉強が嫌になったがそれぞれの理由です。